

## シスコシステムズ

### 徳島大学病院が、病院全体における 情報ネットワーク基盤にシスコ製品を採用

シスコシステムズは、徳島大学病院が、HIS (Hospital Information System) のネットワーク基盤を構築するにあたって、同社の製品を採用したことを発表した。

徳島大学病院は、地域の中核医療機関として、医科25診療科、歯科4診療科と31中央診療施設を持つ大規模メディカルセンターである。開業医3,465人による紹介先の人気ランキング調査で、全国ベスト4に選ばれるなど、地域のみならず広く専門家からも非常に高い評価を得ている。同病院は、大学病院で初のプライバシーマーク取得や、カルテの電子化に取り組むなど、情報化に関するさまざまな取り組みを行ってきた。

一般に病院が扱う個人情報、病歴などの極めてセンシティブなデータを含むため、万一漏洩すれば病院の信用問題や多大な補償のほか、患者様個人の人生に悪影響を与えるなどの恐れがある。しかし従来の医療システムは、各部門で個々に構築されるのみで病院全体としての管理・統合がなく、セキュリティ上の課題を抱えていた。そこで徳島大学病院は、2003年後半から、部門ごとではなく病院全体としてセキュアな電子カルテシステムの構築に取り組み、2007年1月、3外来を除いた全ての診療科で稼働を実現した。

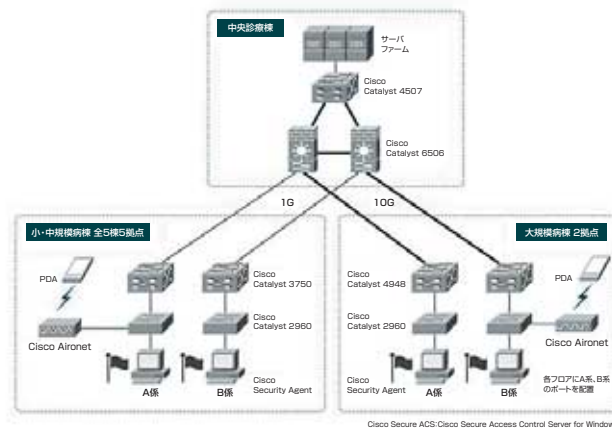
徳島大学病院は電子カルテの導入にあたり、まずインフラとなる高速通信基盤を整備するため、ネットワーク全体の再構築と組織の改編を行った。同大学病院はその要件として、24時間365日患者の個人情報を処理できるよう稼働し続ける「見読性」と、個人情報漏洩対策とカルテの改竄防止のための「真正性」、データの安全な「保存性」を求めた。そして、これら全てのニーズを適確に満たすシスコシステムズにネットワークの構築を依頼した。

今回構築したネットワークは、コアスイッチに「Cisco Catalyst 6506」を、サーバ集約スイッチに「Cisco Catalyst 4507」を利用し、ディストリビューションスイッチとして「Cisco Catalyst 4948」と「Cisco

Catalyst 3750」を利用している。また「Cisco Secure Access Control Server (ACS) for Windows」の導入により、確実な認証を行うと同時に、電子カルテを利用するペンタブレットPCにインストールした「Cisco Security Agent」と組み合わせることで、エージェントがインストールされていない端末のネットワーク接続を排除している。さらに、患者に正しい投薬を行うために使うPDA用のワイヤレス環境を実現するため、ワイヤレスアクセスポイント「Cisco Aironet」も導入した。

徳島大学病院は、今回のネットワーク再構築後、主な利用者である医師を対象とするアンケートを行った結果、高い回答率のもと、アプリケーションの操作性やレスポンスに過半数が満足と回答する評価を得た。また、セキュリティの改善が著しく、確実に管理・許可された端末しかネットワークに入れられないため、内部からのウイルス感染にあう危険性が格段に少なくなった。さらに、診察室で入力したデータを即、調剤部門や会計部門に送ること、診察から会計までの大幅な時間短縮を実現した。

今後は、今回再構築したネットワークをさらに活用し、「医師が診察に集中できる環境を整えることで、患者様にさらに役立つ高度なサービスを提供していく予定です」と語っている。



徳島大学病院のネットワーク図

シスコシステムズ(株) シスココンタクトセンター  
TEL : 03-6677-2992 (直通)

## セールスフォース・ドットコム

### NTTデータと連携して 日本郵政公社に「顧客情報管理システム」を提供

オンデマンド・ビジネス・サービスのマーケットおよびテクノロジーのリーディングカンパニーである米国セールスフォース・ドットコムは、NTTデータによる日本郵政公社の「顧客情報管理システム提供サービス等の委託」の落札に伴い、同社のオンデマンド・アプリケーション「Salesforce」を提供することになった。同顧客情報管理システムは、2007年10月に発足する郵便局株式会社において、個人情報利用に関する同意を得られた顧客のデータ管理を行い、郵便局で取り扱う各種サービスのクロスセルや顧客への適切な情報提供等を目指すものである。

日本郵政公社の担当部門は、今回の採用について「私たちは、日本全国のお客様の生活を高められる総合的なサービスを提供することを目標に掲げています。これは、全国に展開している郵便局のネットワーク、および多様なパートナーシップを最大限に生かすことではじめて実現できます。今回のセールスフォース・ドットコムとNTTデータによるソリューションは、短期間で導入できる上、ユーザーが使いながら個々の業務にあわせて簡単に機能強化、さらに適用範囲を広げることができるということが目標達成を支援するものと期待しています」と語っている。

また、(株)セールスフォース・ドットコムの代表取締役社長である宇陀栄次氏は、「従来、海外からは、日本は、閉鎖的で保守的であるといわれがちでしたが、今回、日本の官公庁が、新しい技術やサービスや外資系企業に対して、オープンで、正当に良いものだと評価していただいた結果だと、大変光栄に思っています。他にも、大手金融機関で大量の採用が進んできていますが、一方で、中小企業でも、非常に多く採用されています。企業規模や業種や地域などで格差の無い、新しいITサービスが、日本の国際競争力の強化に役立つと考えています」と語っている。

(株)セールスフォース・ドットコム  
TEL : 03-5793-8730 E-mail : press@jp.salesforce.com

## 日本HP

### 日本通運品川トランクルームに UHF帯RFIDを採用した荷物管理システムを導入

日本ヒューレット・パッカー社は、日本通運株式が本年4月にオープンした物流拠点「日本通運 品川トランクルーム」に、パートナー企業とともにUHF帯RFID（無線ICタグ）を活用した荷物管理システムを構築した。

日本通運品川トランクルームは、海外赴任中や増築・改築中の家財や、使用頻度の低い財産など、首都圏エリアの顧客の大小の荷物を一時的あるいは長期的に安全・確実に保管するサービスを提供する新拠点である。同トランクルームは、小型のコンテナ（ネステナ）単位で荷物を管理し、12,713.94平米に約8,000基のネステナを保管している。このため、広範囲に多数のネステナが存在する状況でも、確実かつ迅速に各ネステナの委託元、所在、荷物の内容などの情報を管理できるシステムが必要だった。

日通は、これらの課題を解決するために、UHF帯RFIDを採用した。UHF帯RFIDは、長距離での読み取り性能に優れ、広範囲なエリアにおいてもタグ情報の効率の良い読み取りが可能で、今回の要件を非常に効率的に達成することが可能である。そして日本HPは、物流用途におけるUHF帯RFIDシステムの構築実績が評価され、今回のシステムの構築を担当することになった。

日本HPは、これまでのRFIDシステムインフラストラクチャのノウハウを活用し、システム構築を短期間で完了した。また同システムは、顧客荷物の入出庫管理を確実に言うばかりでなく、トランクルーム内の荷物の正確な位置管理を実現している。本システムの主な機器構成は以下の通り。HP ProLiantサーバ／BEA WebLogic RFID Edge Server／パナソニックコミュニケーションズ製UHF帯RFIDリーダーライター／オムロンソフトウェアのRFIDソリューション（インテグレーションサービス）／日本インフォメーションシステムのICタグ、RFIDリーダーライターおよびRFIDソリューション。

日本HP カスタマー・インフォメーション・センター  
TEL : 03-6416-6660

## OKI

### 豊田中央研究所に「SS9100」によるIP電話システムを納入 ～「N900iL」1100台におよぶ大規模モバイル端末導入を実施～

OKIは、(株)豊田中央研究所にIPテレフォニーサーバ「IP CONVERGENCE Server SS9100」をベースとしたIP電話システムを納入した。同システムは、豊田通商(株)と(株)豊通シスコムが提案し、豊通シスコムのプロジェクト管理のもと、OKIが構築したものである。

豊田中央研究所は、トヨタグループの基礎技術の研究や開発とともに、自動車関連技術をはじめとした幅広い分野の研究に取り組んでいる。同研究所では、既存PBXの老朽化に伴い新システムを導入する上で、今後の拡張性や将来性を考え、従業員の機動力向上に貢献できるモバイル端末によるIP電話システムを検討していた。

一方、豊田通商と豊通シスコムは、豊田中央研究所への新システムを提案するために、各PBXベンダーのシステムを比較した結果、無線デュアル端末を使った無線LANによるIP電話システムの構築実績が豊富であること、端末によるプレゼンスやアドレス帳等のアプリケーション機能を利用できることなどから、OKIのSS9100をベースとしたIP電話システムの採用を決定した。

同システムは、NTTドコモのFOMA／無線LANデュアル端末「N900iL」を社員向けに1100台導入し、研究所内にOKIのVoIP対応無線LANアクセスポイント「MWINS BR2102」を309台設置している。N900iLは、携帯回線契約のない構内専用の無線LAN端末として利用され、広い研究所内における電話利用の利便性を飛躍的に向上させている。またN900iLは、IP電話としての機能の他、ブラウザを使ったプレゼンス、アドレス帳を利用することで、通話までの一連の作業を短縮して業務効率を上げることが可能である。

今後、豊田中央研究所では、無線LANデュアル端末を使用した更なる機能追加やソフトフォンなどを利用した業務アプリケーションとの連携による業務効率の改善、利便性の向上なども検討していく予定である。

沖電気工業(株) IPシステムカンパニー IPシステム本部  
マーケティング部 TEL: 03-5445-5706

## ノベル

### 住友電工がXenによる仮想化でノベルを採用

～Xen搭載の「SUSE Linux Enterprise Server」でDR対策を簡素化～

ノベルは、住友電気工業(株)が、仮想化ソフトウェアXenを統合したノベルの「SUSE Linux Enterprise Server」を用いて、有用性の高いプラットフォームのライフサイクルを延長するとともに、リソース利用の効率化によって追加的なハードウェア投資を最小化し、効率的なディザスタリカバリ(DR)拠点の構築を行っていることを発表した。

住友電工では、インテル バーチャライゼーション・テクノロジーに対応したデュアルコア インテルXeonプロセッサを搭載したハードウェアで、SUSE Linux Enterprise Serverを稼働している。これにより、同社にとって価値のあるアプリケーションを仮想サーバに載せて、そのライフサイクルを延長することで、データセンターのリソースを最適化し、業務の効率を高めている。

住友電工は、電線、機器材、エネルギー関連など、銅線製造技術を基盤とした製品を長年にわたり供給してきた。同社では、サーバ仮想化の採用を2006年に決定したが、この理由として、ノベルがオープンソース仮想化ソフトウェアのXenを統合・サポートする「SUSE Linux Enterprise Server 10」を発売したこと、そしてインテルがCPUレベルで仮想化をサポートする方針を打ち出したことをあげている。

住友電工は、現在、いくつかの基幹サーバ・システムをXen搭載のSUSE Linux Enterprise Server上で稼働させている。さらに、その仮想サーバをコスト効率の高いディザスタリカバリ・ソリューションのバックボーンとして用いて、兵庫県伊丹市にある同社のメインデータセンターから神奈川県横浜市のバックアップセンターに対して、仮想化されたソリューションスタックを必要に応じて移行できるようにしている。

ノベルインフォメーションセンター  
<http://www.novell.com/ja-jp/nicweb/>

## NEC ネットエスアイ

### サウジアラビア国営石油会社（サウジアラムコ社）のプラント通信システムを受注

NEC ネットエスアイとNEC サウジアラビアは、世界最大の石油会社であるサウジアラビア国営石油会社（サウジアラムコ社）より、サウジアラビア王国南東部の砂漠地帯に位置するシェイバ油田のプラント通信プロジェクトを受注した。本受注は、システム設計から構築、試験・調整、引渡しまで含むフルターンキーベースでの受注である。

今回のプロジェクトは、サウジアラムコ社の大型油田の中で最も新しい油田（1967年発見）であるシェイバ油田の生産能力増強計画（2008年までに生産能力25万バレル／日）の一環として、光ネットワークの導入をはじめとしたプラント内の複合システム（光バックボーン通信システム、データネットワーク、ボイスネットワーク、VIDEO会議システム、保守用UHF無線システムなど）の構築および拡張を実行するものである。なお、今回の受注は、2005年3月受注の光通信システム第二期プロジェクト（2007年9月完工予定）に引き続くサウジアラムコ社からの受注である。

原油生産量の世界第一位を誇るサウジアラビアは、OPECにて自らコミットした原油の安定供給を目指し、既存油田の採掘量増強に向けた生産設備の増強計画を実行中である。今回のプロジェクトは、その一環としてサウジアラビア王国南東部の砂漠地帯に位置するシェイバ油田の増強に伴い、光ネットワークの導入をはじめとしたプラント内の複合システムの更新および拡張を実行するものである。

NEC ネットエスアイは、過去サウジアラムコ社向けに南部地区光通信ネットワーク構築（2001年8月受注）を契機として、一連の大型光通信ネットワークプロジェクトを継続して受注してきた。今回の受注も、一連のプロジェクトにおけるNECグループのプロジェクト管理・施工能力を高く評価したものである。

NEC ネットエスアイ(株) 営業統括本部NEC営業本部  
海外システム営業部 TEL：03-5463-7744

## SAS Institute Japan

### 横浜銀行が顧客満足の上を目指して金融機関向けマーケティング支援ソリューションを採用

SAS Institute Japanは、(株)横浜銀行が、同行のCRM戦略の一環として、同社の金融機関向けのマーケティングを支援する「イベント・ベースド・マーケティング（EBM）ソリューション」の採用を決定したことを発表した。EBMソリューションを活用したシステムの構築は、エヌ・ティ・ティ・データ・フォース(株)を通じて行なわれ、2008年1月の稼働を計画している。横浜銀行では、この新しいシステムを利用して、個人顧客の取引情報の変化（イベント）からお客さまのニーズを捉え、お客さまごとに有用な金融情報やサービスをご提案するなど、きめ細かく対応することで、顧客満足度の一層の向上を目指していく。

銀行業界では、取り扱うことができる金融商品が、この数年で格段に多様化しており、お客さまのニーズやライフステージに合わせてサービスを提供することが急務になっている。横浜銀行では、以前から「ダイレクトメール」や「コールセンター」などを中心に、お客さまの取引情報を活用したマーケティング活動を展開してきたが、お客さまとの接点としては限定的であり、今後は営業店など実際のチャネルにもその対象を広げ、さらに静態的な取引情報だけでなく、動態的な取引情報の変化も捉えることで、お客さまのニーズに的確に対応できると考えていた。これらを背景に、横浜銀行では、最適なソリューションとして、SASの金融機関向けマーケティング支援ソリューションの採用を決定した。

今後は、SAS、エヌ・ティ・ティ・データ・フォース、横浜銀行の3社に加え、横浜銀行の関連会社である(株)浜銀総合研究所の4社で「EBMのモデルの構築を進めていく」という方針である。

SAS Institute Japan(株)  
TEL：03-3533-3780 E-mail：jpnpress@sas.com

## マクニカネットワークス

### いちよし証券ヘジュニパーネットワークス社製の Webアクセラレータを提供

ネットワーク機器の輸入、開発、販売を手がけるマクニカネットワークスは、いちよし証券(株)に米国ジュニパーネットワークス社製Webアクセラレータ「Juniper DXシリーズ」を提供したことを発表した。Juniper DXシリーズは、Webアプリケーションのコンテンツ配信を高速化するアクセラレータである。独自のDXフレームワークを実装し、コンテンツをより迅速に配信することができる。また、HTTPコネクション集約、HTTP圧縮、サーバ負荷分散、SSL暗号化および終端処理、アプリケーションセキュリティといった機能を一台で全て包含している。

いちよし証券は、証券業界の「ブランド・ブティックハウス」を目指し、個人、中堅・ベンチャー企業といった顧客を重視し、約600名に上る営業担当がノートPCを持参して顧客のもとに伺う営業スタイルを採用している。顧客情報を管理するCRMシステムや、勤怠管理システムといった業務支援のWebアプリケーションに対してスムーズにアクセスする必要があることから、コネクション集約やコンテンツ圧縮、負荷分散など豊富な高速化機能を備えたWebアクセラレータ「Juniper DX3200」を導入した。これにより、通信速度の制約にも関わらず、快適なサイトアクセスを実現した。加えて、システム環境をデータセンターに設置している同社では、むやみにサーバ台数を増やすことは運用コストを上げることになり、ベンダーの試算ではパフォーマンス改善には5台必要と言われていたが、Juniper DX3200を導入したことで、サーバ台数を3台に抑え、運用コスト削減にも効果をもたらした。

今後は、営業担当向けに資産運用総合サービスなどの業務アプリケーションの利用も検討しており、株式検索、株価検索などコンサルティング営業をサポートする機能も提供したいと考えている。

マクニカネットワークス(株)  
TEL : 045-476-2014 E-mail : press@cs.macnica.net

## エンプレックス

### ストアファクトリーが同社のドロップショッピングサービス のバックエンドシステムに「eMplex CRM」を採用

エンプレックスは、(株)ストアファクトリーのドロップショッピングサービス「ミセつく」のバックエンドシステムに、同社が開発・提供した統合CRMパッケージソフト「eMplex CRM」が採用されたことを発表した。

ストアファクトリーは、(株)サイバーエージェントの全額出資により設立されたドロップショッピングサービス事業者で、2006年9月よりeMplex CRMを採用して「ミセつく」の開発を開始し、同年11月より順次サービスを稼働し、本年2月26日にグランドオープンした。「ミセつく」は、ドロップショッピングサービスの中でも、サイバーエージェントが擁する150万人の「アマーバブログ」会員をコアにした周辺サービスの充実を目指しており、ブログの延長線上で店舗運営の楽しさを提供することを重視している。このため「ミセつく」では、「『つくる・うる・かう』を簡単に、もっと楽しく。」をコンセプトに、操作の簡便性、またエンターテインメント性に秀でた会員サービスや品揃えを実装した。

「ミセつく」のシステム構築にあたっては、エンプレックスが同社のeMplex CRMからECサイト運営およびCRM全般に関するソリューションを提供し、膨大な数に上る商品情報の一元管理、受発注、出荷指示、決済、会員データベース管理、会員一人ひとりの属性や店舗売上状況に応じたOne to Oneコミュニケーションなどの機能を担っている。また、ストアファクトリーが自社開発した会員インタフェースとの連携は、ストアファクトリーとエンプレックスが共同で行った。

ストアファクトリーは、今回のシステム構築にあたり、10社以上のベンダーを比較検討した結果、EC構築・運営に必要な機能の全てを標準装備している点や、ECソリューションとして「eMplex CRM」が培ってきた実績、6カ月でのグランドオープンという短期での大規模開発への対応力を鑑みて、eMplex CRMの採用を決定した。

エンプレックス(株) コーポレートコミュニケーション部  
TEL : 03-5568-7331 E-mail : info@emplex.co.jp

## イコールロジック

### iSCSIストレージがNTTのクライアントPCのセキュリティ管理システム「STRAGEX」に採用

NTTが推進するSTRAGEXは、iSCSIインタフェースを使って大容量ストレージからクライアントPCをネットワークブートする技術で、PCにストレージを持たせないことで情報漏洩、セキュリティ、災害対策といった情報管理対策に効果を発揮する。そのSTRAGEXのキーとなるiSCSI対応ストレージに、エンタープライズクラスのiSCSI対応SANソリューションを提供する米国イコールロジックのiSCSI対応ストレージ「PSシリーズ100E (PS100E)」が採用された。現在、NTT本社をはじめ、そのグループ企業である(株)NTTデータと(株)NTTファシリティーズで、その有効性と費用対効果の高さが実証されている。中でもNTTデータにおいては、技術開発本部で端末150台の大規模実証評価が2006年10月より継続しており、その中でPS100E 3台が稼働している。

STRAGEXは、従来のシンクライアント方式とは異なり、サーバではなく大容量ストレージから直接ディスクレスのクライアントPCをネットワークブートする。このため、サーバの負荷を意識することなくPCを接続することができ、ローカルPCデータの集中的なバックアップと管理が可能である。また、クライアント向けのストレージソリューションであることから、ファイバーチャネルとは違い、既存のネットワークインフラを使用できるiSCSI技術を採用している。そこで、iSCSIのインタフェースを持ち、多くのクライアントPCを同時に接続できる高機能・高性能なストレージが必要となった。

STRAGEXのシステムを本格的に商用化するにあたり、NTTでは2006年2月から自社で同システムの試験導入を開始。それに先立ち、数あるiSCSIストレージ製品の比較検討を行い、その中で様々なシステム要件を満たし、最も費用対効果を感じられた大容量ストレージとして「EqualLogic PS100E」の採用を決定した。

イコールロジック

TEL : 03-5565-5048 E-mail : japaninfo@equallogic.com

## ブルーコートシステムズ

### 鹿児島大学が硫黄島と鹿児島市内を結ぶ専用区間のWAN最適化に「MACH5技術」を採用

セキュア・コンテンツおよびアプリケーション配信のリーダーであるブルーコートシステムズは、鹿児島大学の学術情報基盤センターが、硫黄島（鹿児島県鹿児島郡三島村）と鹿児島大学の郡元キャンパス（鹿児島市内）を結ぶ1.5Mbps専用線区間に、WANアプリケーション最適化機能（MACH5）搭載の「Blue Coat SG」を導入したことを発表した。

今回、鹿児島大学と硫黄島に、MACH5を搭載するBlue Coat SGが導入されたことで、Webやメールなどのアプリケーション、そして、最近特に需要の高いストリーミング・アプリケーションを主とした全てのTCP通信において、高速化と帯域幅削減の効果を得ることが可能となり、硫黄島の島民に快適なインターネットアクセス環境を提供することが可能となった。

鹿児島大学では、以前より、ADSL回線などの直接的インターネットアクセスが未提供となっている県内の島々を対象に、衛星回線経由でのインターネットアクセスや、専用線を使って市内の鹿児島大学までのインフラを構築し、市内経由でのインターネットアクセスを提供するプロジェクト「条件不利地域におけるコミュニティ・ブロードバンドの整備に関する研究」を展開している。このプロジェクトにおいては、回線のランニングコストも然ることながら、回線における往復距離遅延や狭帯域による島からのインターネットへのアクセスに関する実行速度の低下が問題となっていた。これらを改善する目的で、ブルーコートのWANアプリケーション最適化機能であるMACH5技術を搭載したBlue Coat SGを採用した。

鹿児島大学は今後、衛星回線で市内と接続されている島に対しても同様の環境整備を進めていく予定である。

ブルーコートシステムズ(株)

TEL : 03-3580-8350